

心房細動に対するパルスフィールドアブレーション 循環器内科 増田 正晴

■ 心房細動とは？

心臓の中の心房内に異常な電気信号が起こることによって生じる不整脈の一種です。心房内で血液の流れが悪くなり、血栓ができやすくなります。日本国内では、100万人以上の患者さんがいると推定されている頻度の高い病気です。

心房細動になりやすい原因として加齢や肥満、弁膜症、高血圧症などがあります。

■ 心房細動の根治治療 アブレーションとは？

心房細動は放置すると心機能低下をもたらし、心不全や脳梗塞によって重篤な状態に至る疾患です。できるだけ早期のアブレーション治療によって心房細動を取り除くことが心不全や脳梗塞予防に有効であり、一部の患者さんでは寿命を延ばす効果も認められています。

■ これまでのアブレーション

心房細動のアブレーションはこれまで高熱による「やけど」あるいは低温による「凍傷」によって肺静脈入り口の心筋にダメージを与える治療が行われてきました。これらの「熱」によるアブレーションは心臓以外の臓器にもダメージを与えるため、全国的には稀ながら合併症の報告がありました。

■ パルスフィールドアブレーションとは？

1年ほど前から欧州で使用可能になったパルスフィールドアブレーション(図1)は「熱」ではなく、パルス電圧(図2)を肺静脈の入り口にかけることでアブレーションを行います。熱が発生しないので、従来のアブレーションに比べて、合併症が少ないことが特徴です。欧州では十分な使用実績があり、2024年より本邦でも使用可能となりました。

関西労災病院不整脈科でも、2024年8月より治療機器を導入しております。

心房細動の患者さんにとってはこれまで以上にアブレーション治療を安全に受けていただくことができます。



図1:パルスフィールドアブレーション

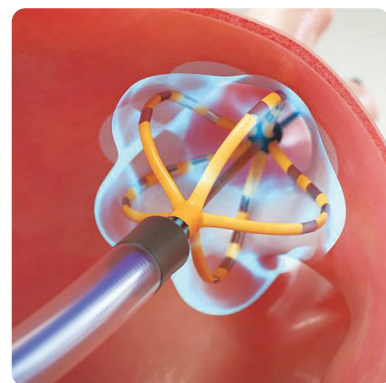


図2:パルス電圧

心房細動アブレーションは、3～4日程度の入院、30分～60分の施術時間、全身麻酔も可能です。

心不全・脳梗塞・認知症の原因となる病気の為、早期に取り除くことが大切です。

ささいなことでも気になることがある方は、お近くの不整脈専門医までご相談ください。



関西ろうさい病院の理念

●● 良質な医療を働く人々に、地域の人々に、そして世界の人々のために ●●

病院運営の基本方針

- ・私たちは、働く人々の健康確保のための医療活動、即ち「勤労者医療」の中核的役割を担って、これを推進します。
- ・私たちは、高度急性期医療機関として良質で安全・高度な医療の提供を行うとともに、地域の諸機関と連携して地域医療の充実を図り「地域に生き、社会に応える病院」としての発展を目指します。
- ・私たちは、患者さんの権利を尊重し、医療の質の向上ならびに患者サービスの充実に励み、「信頼され、親しまれる病院」作りを心がけます。
- ・私たちは、「開かれた皆様の病院」として、ボランティアや有志の方々の病院運営への参加・協力を歓迎します。
- ・私たちは、病院使命の効果的な実現のために「働き甲斐のある職場」作りを行い、運営の効率化と経営の合理化を推進します。

イメージキャラクター
かんろっこ

さぶりめんと

2024-Dec

No. 68

えん げ
嚥下障害と耳鼻咽喉科の関わり

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 野澤 眞祐

嚥下障害とは

食べ物や飲み物を飲み込み、食道から胃へ送り込む動作を「嚥下」と言います。

食べ物を認識して口の中に入れ、舌で動かし歯で擦り潰し、飲み込みやすい塊にしてから、喉の筋肉が収縮して、食道の方へ引き込まれていきます。嚥下障害とは、この一連の動作に異常をきたすことを言います。また、食べ物や水が食道ではなく肺につながる気管に入り込んでしまうことを「誤嚥」と言います。

嚥下障害の治療法

嚥下障害の診療には、医師、歯科医師、看護師、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士など、様々な職種が関わります。噛める歯があるか、口の中の感覚や舌の動きに問題がないか、喉の筋肉の収縮の強さやタイミングに問題がないか、食道の入り口は開いているかなどを評価していきます。症状に合わせたリハビリを指導したり、飲み水にとろみをつける指導や、誤嚥しにくい食事形態を提案したり、時には手術で治療を行います。

関西労災病院の嚥下外来について

関西労災病院では、2016年に脳神経内科で嚥下外来を開設し、神経疾患の患者さんを中心に嚥下障害の診療を行っています。摂食嚥下障害認定看護師、NST看護師、言語聴覚士による嚥下評価、嚥下造影検査(図1)を行い、リハビリ指導、在宅スタッフとの連携を行っています。

2024年から耳鼻咽喉科でも嚥下外来を開設し、主に院内紹介の嚥下障害診療、脳神経内科の嚥下外来との連携を開始しました。

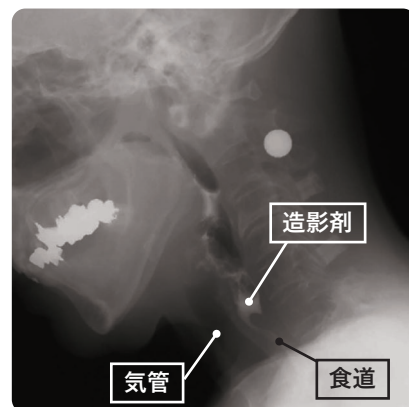


図1：嚥下造影検査
(食道の入り口が開かず、造影剤の通過が悪い)

嚥下障害と耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科では喉頭ファイバー(内視鏡)を用いた嚥下内視鏡検査(図2)を行うことが可能です。とろみ水やゼリーを飲み込んでもらい、喉頭ファイバーをのど(咽頭)に挿入し、食べ物の飲み込み(嚥下の様子)を評価する検査です。

嚥下造影検査と比較して手軽にできること、短時間で検査できることが特徴です。

水を飲むときや食事の際にむせる、つかえするという症状でお悩みの方は、耳鼻咽喉科にご相談ください。



図2：嚥下内視鏡検査
(食道の入り口に緑の着色水と泡状の唾液が溜まっている)